

第1回町田市観光まちづくり基本方針策定検討委員会 会議録

開催日 2016年8月17日(水)

時間 開会： 14時00分 閉会： 16時00分

場所 市庁舎10階 会議室10-4

出席者 出席委員： 西田司 委員長、高橋清人 副委員長、秋山綾 委員
中村浩之 委員、カイル・カード 委員、佐藤勲 委員、
鈴木悟 委員、本多浩子 委員

傍聴者： なし

庁内検討委員(傍聴)： 企画政策課1名、産業観光課1名、
農業振興課1名、北部丘陵整備課1名

事務局： 経済観光部長、産業観光課観光まちづくり担当課長
産業観光課統括係長、産業観光課2名

<開会>

<1. 経済観光部長挨拶>

<2. 委員自己紹介>

<3. 委員会の運営について>

事務局から

- ・町田市観光まちづくり基本方針策定検討委員会設置要綱の説明
- ・町田市審議会等の会議の公開に関する条例の説明
- ・会議録についての説明

<4. 委員長・副委員長の選出>

委員の互選により委員長は西田委員、副委員長は高橋委員に決まる。

<5. 議事>

- (1) 観光まちづくり基本方針について
- (2) 観光まちづくり基本方針検討体制及びスケジュールについて

委員

- ・日本全体で経済が衰退している中で観光は成長戦略として重要になってくる。
- ・町田で観光施策をどのように推進していくのか、何のために町田に来てもらうのかを明確にすることが大切。

委員

- ・市民が町田のことを知らない。
- ・市外から人を呼ぶことが今必要なのかは疑問。

委員

- ・そもそも町田を知らない人が多い。PRが足りない。
- ・町田に外国人が来るように町田の知名度を上げるべき。
- ・代々木公園のように世界の食のイベントとかをなぜ開催しないのか。
- ・町田は（新宿から箱根方面等に出掛ける際の）通過点になることが多いので、小田急と協力して途中下車できる切符などつくってみてはどうか。

委員

- ・町田は（外国人旅行者が東京から関西方面に移動する際の）中継点となっている。
- ・今後インバウンドの動きは予想がつかない。現在は団体が多いが、今後は個人旅行者が増えてくるのかもしれない。

委員

- ・地域資源を活用できないか考えているがなかなか難しい。
- ・最近町田シルクメロンがメディアで取り上げられることが多くなってきた。町田独自の資源を観光に活かすことができればと思う。

委員

- ・町田は駅前がメインで、北部は自然が豊富で魅力があり、南部は住宅地という印象である。
- ・北部の住民が南部に行くことはない。町田市民に町田の魅力を知ってもらうことが大切。
- ・切り口を決めて情報発信する必要がある。

委員

- ・外国人旅行者が町田を訪れるには、自ら（ホームページ等で）調べて来る場合と、都内に住んでいる日本在住外国人の知り合いが連れて来る場合がある。いずれにしてもメトロポリス等に情報掲載するのも良い。
- ・まちびと 2016年夏号の「町田の大自然に触れる」という特集は良かった。歩くだけの観光ではファミリー層には辛い。ブルーベリー摘みや農業体験といった体験型の観光の方がファミリー層には向いている。
- ・インバウンド対策は、SNSを利用すると良い。またはALTにボランティアで協力してもらい日本語と英語で情報発信するという方法もある。

委員

- ・町田に住んでいる人に町田を知ってもらえるのか、インバウンドに特化するのか、どちらに向かうのか目的をしっかりと決めて、町田の観光は何なのか、地域の人にどう動いてもらうのかを考えるべき。

委員

- ・町田は独特の地形をしており、主要な交通機関は町田の外側を通っている。
- ・北部の人が南部に行くことは少ない。町田の中で交流をするにはその土地に魅力があって、はじめて人が動くようになると思う。

(3) 観光まちづくりにおける現状と課題について

委員

- ・新しいことを作り上げる前に、現在あるもの(お祭りや自然)を強く発信していくべき。
- ・外国人は日本に興味があり、憧れもあるが、町田で大きなお祭りがあることを知らない。
- ・町田は新宿からのアクセスも良いし、お祭りの情報を知っていれば来ると思う。

委員長

- ・観光コンベンション協会のホームページで情報発信はしているが、見る人はいるのか。

委員

- ・メトロポリスのように外国人が目にするもので情報発信をしていかないといけない。
- ・町田をそもそも知らない人が多く、町田のホームページを検索する人はいない。

委員

- ・ホームページを外国語対応にしたが、自動翻訳に頼っている状態である。
- ・外国人向け、日本人向けに分けて作成しないと、情報が届かない。
- ・固有名詞の表示、通り名などの標識とかも考えていけないといけない。

事務局

- ・通り名や公園などの固有名詞については、統一的なルールを基に外国語を表記する必要がある。市では今年5月に「町田市多言語化指針」を策定したところであり、今後はその指針に合わせて更新していくことになる。

委員

- ・今日は第1回目の策定委員会なので、個別のイベントやプロモーションの話になると拡散してしまう。時間も限られているので、どんなことをやっていくかの話を中心に議論するべき。
- ・町田には40万人住んでいるのに、観光に関する意識がないとか誇りがないことが課題。
- ・市民は様々なので、そんな方々にどのような動きをしていただくか考える必要がある。

委員

- ・町田の中で北部の人が南部を訪れる動きがないのはそのとおり。町田の中で動きたい動機が出てくるかという点が出てこない。
- ・町田の中心と周辺のことを考えていった方はよいのでは。

委員

- ・イベントはそれぞれ特色がある、様々なイベントが市民に伝わっているのか。伝え方が課題。

委員

- ・観光資源をどのように探していくか悩ましいところ。
- ・オリンピック・パラリンピックへの体制づくりの一つの案として、参加型、体験型の観光を進めていくのはどうか。

委員長

- ・ほかの地域の取り組みで何か参考になるのものがあれば。

委員

- ・日本で似たような取り組みを行っても目立たない。あれもこれもやるのは良くない。
- ・町田の売りを明確にする必要がある。
- ・日々の暮らしを見てもらい、暮らしそのものを観光資源としてまちづくりに活用する方法もある。
- ・町田すべてではなく、町田の中心と周辺で分けて考えた方がよいのではないか。

委員

- ・川越市では、観光客のためではなく市民のための取り組みをしている。結果、それが観光客からおもしろいと評判になった。
- ・練馬区は観光地ではないところで最初にするぶを発行した。観光地ではないところに人が来てもらうには、「町田本」「散歩の達人」などの媒体に情報発信するなど、インフォメーションの仕方が大切。そこに載っているのは、周りからみた町田の売りだと思う。

委員長

- ・町田の魅力を議論していく中で、言語化していくのが難しい。もう少し外の目線で見ることができれば良い。町田の特集や町田をフォーカスしている記事があれば準備していただきたい。5～10年以内で。

事務局

- ・次回提示できるようにしたい。

委員

- ・中心市街地に人が来ているというがどのような人が来ているのか。周辺地域にはどんな人が来ているのか、どういう人たちに来てほしいのか。そのようなことが分からないのに、闇雲にプロモーション等の話をしても仕方ない。
- ・何のための基本方針なのか、町田に求められているものは何か、中心市街地に求められ

ているものは何か、周辺地域に求められているものは何か。町田に来る人が、どういったところでどのようにお金を使っているのか。あれば示してほしいが既にデータとしてあるのか。まずはそれを明確化するのが大切。

事務局

- ・次回提示できるようにしたい。

委員長

- ・大抵の取り組みは行っている。その中で、町田の魅力は何かを絞り込むところに時間を掛けていかないと、結局イベントのやり方を話合っただけ終わってしまったということになりかねない。

< 6. その他 >

事務局

- ・次回の日程については9月27日（火）または9月28日（水）のいずれか、時間帯は14時からで調整する。

< 閉会 >

16:00 議事終了